

楽しんで儲かる 農業み～つけた

玄米アミノ酸微生物農法の役立つ情報満載！

発行
静岡農業技術支援協同組合

ご挨拶

新年のご挨拶

深刻な土壌汚染

元肥と追肥の違いによって
土壌の傷み方は大きく違ってくる！

玄米アミノ酸で 高収量にする方法

イチゴ栽培で収量を倍にして
Lサイズを多くして糖度まで高める方法！

Q&A

米ぬかぼかしについて教えてください！



金利が上昇しなければ円安と肥料高は続きます！暑さ対策を十分にやりましょう！

あけましておめでとうございます。

新年を迎えるというのは、すがすがしい気分になります。今年が良い年にしたいですね。

昨年は大変な猛暑でした。そして資材も値上がりしました。肥料は輸入ですから円安が大きく影響しました。金利が現在のままだと、さらに円安になっていく可能性もあります。それに猛暑です。昨年は大きな被害になりました。大雨よりも、ひどかったのではと思われるほどです。被害の割には野菜の価格は高くないのです。

これは市場が価格調整をしているのです。家計の負担を抑えているのです。そして、それを生産者が負担しています。肥料高の上に価格安ということで二重苦になっているのではないのでしょうか。

今年アメリカ大統領の選挙の年です。この結果が今後を大きく左右していきます。しかし世界的に見ると経済が思わしくありません。インフレ傾向です。物価高と不景気ということも考えられます。安心できる年ではないような気がします。

農業は気候の影響を大きく受ける仕事です。気候変動対策はとても大切になってきます。玄米アミノ酸微生物農法は気候変動に対応できるようにと考えて開発されました。土壌のパワーである微生物を、もっとも大切にしています。

今年もあなた様のお役に立てますように情報を提供していきます。
龍年は成功の年ですね。良いお年になることを祈っています。



元肥と追肥の違いによって土壌の痛み方は大きく違ってくる！

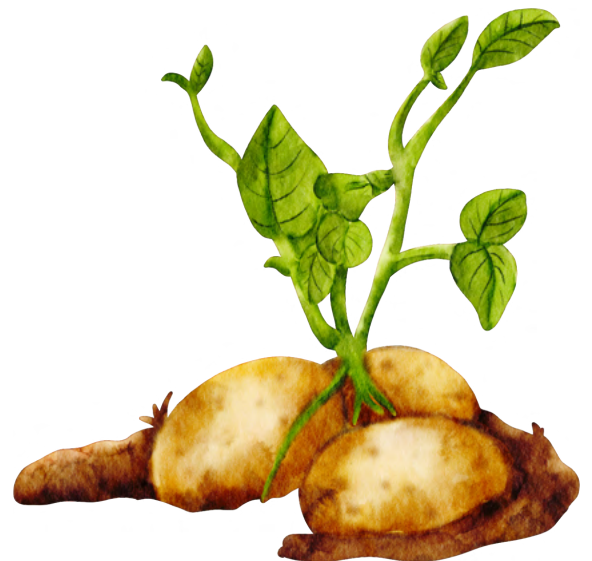
気温の高い気候になって目立ってきたことがある。それは土の変化である。土の痛みが激しくなっている。サツマイモなどは全国的に根腐れが発生している。サツマイモだけではなく、根菜系に共通した現象になりつつある。根菜系の栽培は一般的に肥料がないと育たないと教えられていると思う。そのために肥料をたくさん投入する傾向にある。ところが、**根菜系に必要なのは肥料ではないのである**。え！嘘でしょうと頭の中で混乱してしまうのである。**根菜系に必要なのは、第一に排水が良い土である**。排水が良くないと、土の中に酸素がなくなってしまうからである。



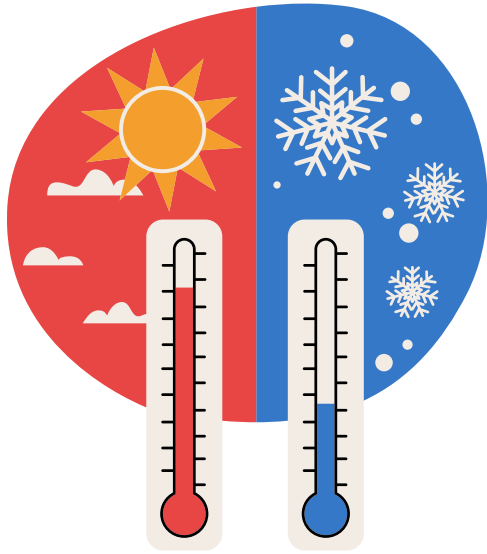
次に必要なのは**土の団粒性**である。土がベタベタしていない、サラサラしていることである。その次に**微生物性**である。好気性の善玉微生物が土の中に多いということである。**この三つの条件が整えば肥料はほとんどいらない**。もし化成肥料を投入したとしても元肥ではない、追肥に使う。それも成分量で10アール3kg程度である。

じゃが芋でも里芋でも、種芋で植えた場合は芽が出るまでに時間がかかる。芽が出て20cm前後になると、茎もしっかりしてくる。この時に追肥である。じゃが芋は花が咲いた頃にもう一度追肥をしてやると、大玉の収量が多くなる。

元肥と追肥では何が違うのかということである。この違いの分かる人は少ない。元肥は必要もないのにチツソ分を投入していることになる。**追肥は必要な時に投入している**。土の中に残るチツソ量が圧倒的に違ってくるのである。**土の中に残るチツソ量が少ないほど病害も少なく、土壌の痛みも少ないことになる**。農業は同じ農地を使い続ける。これが積もり積もると、大きな違いになるのである。病害が出たら、土壌消毒で対処するのは一般的かもしれない。そうすると、さらに土壌は痛むことになる。この問題は全国的に大問題になりつつあると言ってもよいのである。



イチゴ栽培で収量を倍にしてLサイズを多くして糖度まで高める方法！



1月は気温が低くなり日照も少ない。イチゴはこの時に最盛期になる。ほんとうにイチゴの樹が出来るのは1月になると思う。ここで収量も多くしたいと考えて液肥を多くする人が大半である。液肥の濃度を上げる人も多いと思う。そうすれば樹勢も良くなって花芽も多くなると考えるのである。

しかし、そうはならないのである。3月になって気温が高くなると病害が出て樹勢が弱くなってしまふのである。収量もガクッと減る。こういうことを繰り返している生産者は多いのではないだろうか。

イチゴはバラ科である。もっとも肥料分が少なくても良い作物である。必要なのは肥料ではなく水分なのである。それも根の水分ではない。茎葉の水分である。イチゴ栽培はほぼ100%ハウスで作っている。ハウスの中は1月でも25度にはなる。暖かい日だと30度になるかもしれない。その時間帯は午前中11時～午後3時くらいではないだろうか。その気温の上がった、あたたかい時に玄米アミノ酸酵素液を500倍希釈して葉面散布する。10アール100ℓくらいである。葉がしっかり濡れるくらいがおすすめである。

朝に収穫して出荷したら、10時くらいでしょうか。それからでも良い。また午後の2時頃に2回目をやる。これを可能な限りくり返す。そうすると樹勢はさらに良くなる。樹も生長する。花芽も多くなる。実もLサイズになる。糖度も出る。病気にはほとんどならない。良いことづくめである。



根に水をやらなくてもいいの...？葉で水分を吸収すれば自然に根に送られるようになっている。茎葉その水分だけで大丈夫なのである。もし、これが出来たら収量は2倍になる。Lサイズになれば価格も高い。しかも病気もないとしたら消毒も少なくて良い。消毒する時は、玄米アミノ酸酵素液を500倍希釈してから消毒薬を入れる。これだけで大違いになる。

玄米アミノ酸微生物農法に寄せられたご質問を紹介します



籾殻ボカシ肥について質問がありご連絡致しました。
夏秋トマトと冬春小松菜を同じ圃場で栽培しており、
年に一回籾殻ボカシ肥を投入（600kg/10a）して3年目です。
土壌分析をしたところ、リンがかなり多いとの結果が出ました。
元々リンとカルシウムが多い圃場ですが、原材料の米ぬかの成分量から考えても
1年作ると成分が減ってもいいはずですが、減るところか年々増えています。
他に投入したものは、腐植資材、微量元素資材くらいでN、P、Kは
籾殻ボカシ肥料のみです。
以下3点お伺いしたいのですが、



- ①籾殻ボカシ肥料の性質を考えると土壌微生物が増えるような資材だと思いますので、これは3大要素の循環菌がかなり強く働いているためと考えていいのでしょうか？
- ②それとも、乳酸菌が出す酸がアルミナやリン酸カルシウムをキレート化し土中にリンを放出したのでしょうか？
- ③この場合は、今年の籾殻ボカシ肥の投入量を減らしたほうがいいのでしょうか？

コストも質も優れている資材だと思うので、今後も是非使い続けたいです。
バランスのとれた土にするため、上手な使い方を教えていただければ幸いです。
宜しくお願い致します。


福岡県 I様




まず始めに土壌分析はあてになりません。大切なことは作物の状態です。
作物に問題が出ていなければ今後も乳酸菌もみがらぼかしの投入はOKです。
リンが多いということは病害が多くなるという事が出ていますか。
出ていなければ微生物性が高くなっているという事です。
量は減らさなくても大丈夫です。
微量元素も腐食資材も必要ありません。
乳酸菌もみがらぼかしの中に含まれています。
トマトは玄米アミノ酸酵素液の葉面散布を5段以降はしっかりやって下さい。
収量と糖度が上がります。



玄米アミノ酸微生物農法 お問合せはLINE・メール・FAXでお寄せください！

MAIL  info@shizuoka-agrisupport.org <24時間受付中>

FAX  **0120-870-442** <24時間受付中>



玄米アミノ酸微生物農法
オンラインサイト



<https://aminofarming.com>

ネット注文が便利です♪

玄米アミノ酸微生物農法

玄米アミノ酸微生物農法
LINE公式アカウント



お友だち追加はこちら



毎月1日・毎週金曜日にお得な情報を
発信しております！
お友だちだけの特別なキャンペーンも定期的にも実施中！



静岡農業技術支援協同組合

〒422-8034
静岡県静岡市駿河区高松2-15-26